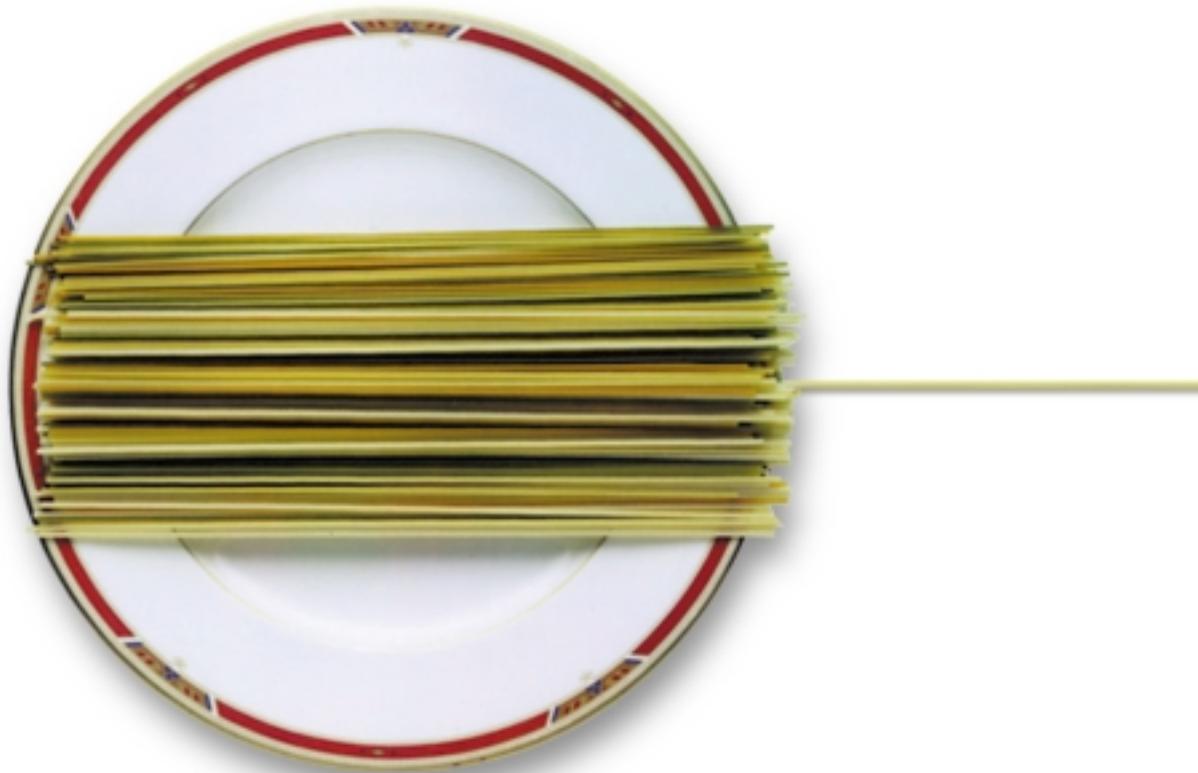
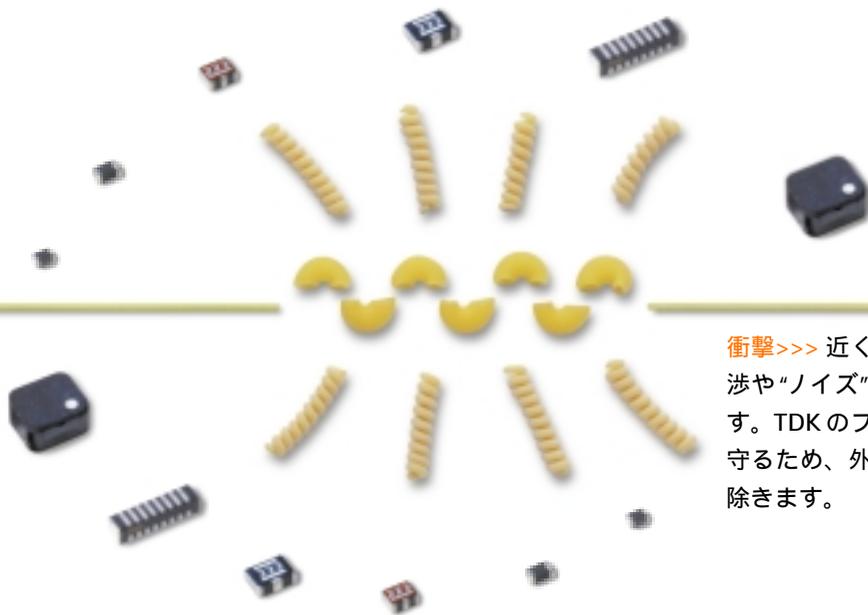


Signals Crossed?



全ての信号は生スパ
ゲッティと同じくらいまっすぐ
で純粹に生まれています。ところが、
最後の目標にたどり着くまでに幾多の
障害に遭遇します。TDKの電子部品
はこの旅路での障害から信号を
守り、予定通りの使命を果たす
手助けをしています。

当社は2000年3月期から、売上高の内訳を見直し、また一部製品区分の名称変更を行いました。その結果、従来の磁性材料製品は電子材料製品に、電子機器応用製品は電子デバイス製品と改称しました。また、製品再分類における主要な変更ポイントは、積層チップコンデンサを電子材料製品に組替えたことです。従いまして、前年度との売上高比較は、当期の表示区分に合わせて行っております。



衝撃>>> 近くの電気回路部品からの干渉や“ノイズ”は信号に乱れを及ぼします。TDKのフィルターは信号の波形を守るため、外からの余計な影響を取り除きます。

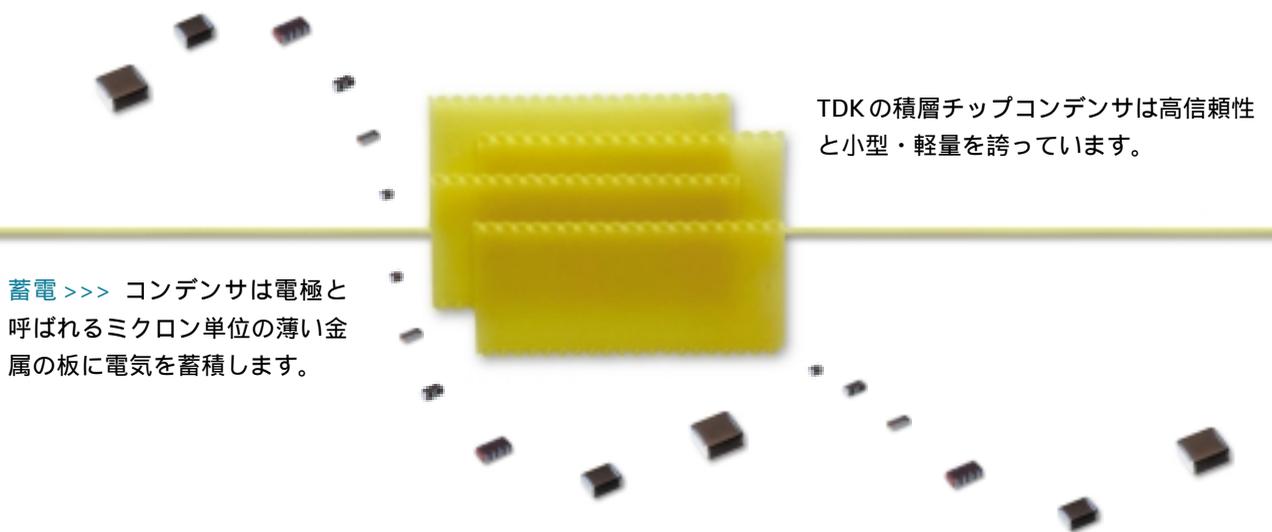
電子材料製品

電子材料製品の売上高は12.6%増加し、1,748億97百万円となりました。製品区分の売上高の大半を占める積層チップコンデンサは、PCや携帯電話メーカーからの旺盛な需要により、大幅に伸長しました。こうした需要増に対応するため、当社は生産能力増強のための大規模な投資を実行しました。その結果、生産能力(/ 月)は1999年春時点の約50億個から、秋には約70億個へと拡大し、さらに2000年春には85億個へと増加しました。

電子デバイス製品

電子デバイス製品では多くの製品が好調に推移した結果、売上高は前年比7.4%増加の1,290億25百万円となりました。当製品区分の主要な製品の 카테고리は、インダクティブデバイスですが、その中に含まれるのはノイズ対策製品、インダクタ(コイル)、トランスなどです。PC用ノイズ対策製品とPC及び携帯電話向けインダクタの売上高は拡大したものの、偏向ヨーク・トランスの売上減少により、インダクティブデバイスの売上高は前年とほぼ同様となりました。

一方、高周波部品は、携帯電話メーカー、特にヨーロッパメーカーからのアイソレータ、



TDKの積層チップコンデンサは高信頼性と小型・軽量を誇っています。

蓄電 >>> コンデンサは電極と呼ばれるミクロン単位の薄い金属の板に電気を蓄積します。

フィルタなどへの需要が急拡大したことなどにより、売上高は大きな伸びを示しました。このひとつの要因として、ヨーロッパで採用されたデュアルバンドの携帯電話が従来より多くの回路部品を必要とすることがあげられます。また、当社は携帯電話用に複数の信号受信部品を1モジュール化した新型フロントエンド・モジュールを投入しました。この製品は2001年3月期から収益に貢献する見込みです。

センサーとアクチュエータも、温度によって電気抵抗が変化する半導体温度センサー、チップNTCの需要が増大し、売上高増を果たしました。

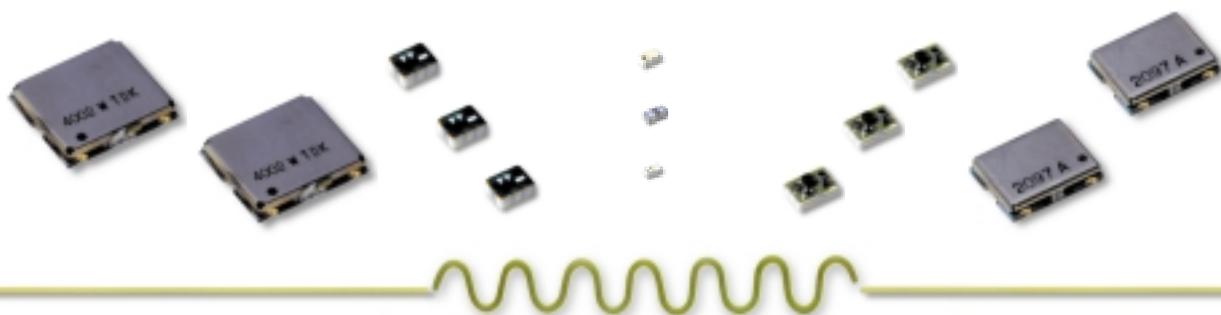
4番目の製品カテゴリーであるパワーシステムズも順調に売上高を伸ばしています。なかで

営業の概況

も、直流を決められたある一定の直流に変換するDC-DCコンバータの受注が飛躍的に伸びて業績を支えました。中でも携帯ゲーム機器向けが、主に売上高増に貢献しました。また、ハイブリッドカー用のDC-DCコンバータの売上がスタートしたのも重要な成果です。

記録デバイス製品

記録デバイス製品の売上高は様々な要因が重なり、4.2%減少の2,007億48百万円となりました。当社は急速な技術進歩の中で、GMR(大型磁気抵抗)ヘッドを市場投入するとともに、



超高周波化 >>> 携帯電話とデジタル回路はギガヘルツと呼ばれる非常に高い周波数の信号を使います。TDKの高周波部品は、これらの信号が滞りなく、その目的地まで到達することを保証します。



迅速に生産能力を増強することによりHDD用ヘッド市場でのリーダーシップを確保しました。しかしながら、HDD用ヘッドの面記録密度の上昇率は年100%と驚異的なスピードで高密度化を遂げています。これにより、HDDメーカーがディスクの記憶容量を増加させても、ドライブ当たりのヘッド数が減少したため、ヘッドの需要は予想を下回る結果となりました。また、HDDメーカーの業績の低迷によってヘッドの価格低下を引き起こしたことも、売上高へ影響を及ぼしました。

当社はHDD用ヘッド市場のリーディングカンパニーとしてのポジションを確保するため、様々な施策を実施しています。2000年3月には、HDD用ヘッドの大半を現時点で最も面記録

密度が高いGMR技術に切り替えました。また次世代GMRヘッドの販売もすでに開始しています。さらに2000年後半には、従来のものより面記録密度を高めたトンネリングGMR (TMR)ヘッドのサンプル出荷を計画しています。また2000年3月には、カリフォルニアのGMRヘッドメーカーであるHeadway Technologies社を買収しました。同社のGMRでのノウハウ活用と研究開発陣との協力により、当社は世界におけるHDD用ヘッドメーカーのリーディング企業としての地を更に確かなものにしていきます。



IC関連その他製品

当製品区分の売上高は4.3%減少の273億5百万円となりました。モデム内蔵型PCが増加したため、PCモデムカードの需要は弱含みで推移しました。一方、半導体関連の売上高は好調でした。特にカリフォルニアのTDK Semiconductor社は、LANやセットトップボックス(受信端末)などの通信用ICの設計分野で優れた技術力を発揮しています。1999年9月には、同社はVertex Networks社の大株主となりました。今後、Vertex Networks社の技術を活用し、高速でマルチ機能を持つLANやWAN分野に不可欠なIC事業を拡大させていきます。

営業の概況

記録メディア製品部門

オーディオテープの需要減と光ディスクの販売価格低下により、記録メディア部門の売上高は12.5%減少の1,424億89百万円となりました。オーディオテープは光メディアへのシフトにより、長期的に需要が減退し続けています。前年度は光メディアの売上がオーディオテープの売上を抜いた歴史的な1年でした。ビデオテープ分野は、販売量は前年度とほぼ同様でしたが、為替変動と販売価格低下により、売上高は減少しました。また、ミニDV(デジタルビ

保存 >>> CD-R ディスクでは、デジタル化された信号をレーザーの熱を使って特殊な色素の点として書き込みます。

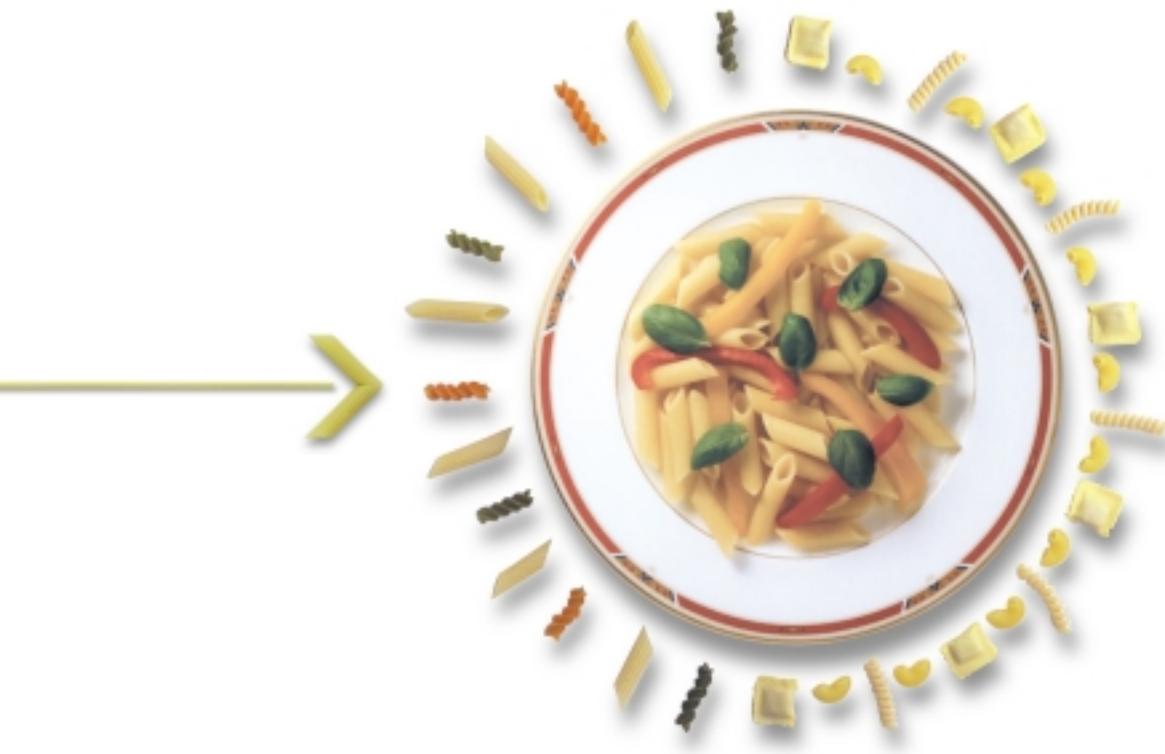


TDKの光学物質分野や薄膜形成の専門的知識は、貴重なデータを守ります。

デオ)カセットは好調に推移しており、当社ではこれに対応し、生産能力を増強しました。

光ディスクの販売量は大幅に伸長し、これにより売上高も増加しました。特に、CD-Rの用途が拡大したことにより、これらディスクの需要は急速に広がっています。これに対応し、当社では早急に生産能力を増強しました。円高や販売価格の低下という影響も受けましたが、販売量の増加により、売上高を伸ばしました。MDの売上は日本とヨーロッパで販売量が増加したものの、価格低下によって相殺され、前年度比微減となりました。DVDは、次世代光メディアのフォーマットとして幅広く市場に受け入れられてきています。当社は需要拡大に合わせ、DVD-RAMやDVD-R/RWなどのディスク増産に着手できる環境を整えています。

Perfection!



TDK の部品
は多岐に渡っていますが、
その役割は極めてシンプルです。
それは、信号がすばらしい最終製品を創り
出す手助けをすることです。